

アフターケア通信

ご本尊を受けとられた貴方へ



【真宗門徒の正月】

正月の元日より三日までを「修正会」と称し、新しい年を迎えるにあたって、真宗門徒は、家族一同がお内仏の前にすわり、お正信偈（しょうしんげ）のお勤めをします。

現代という時代は、生活スタイルの多様化がすす
堂に
てお
の前



修正会の様子

【本当につながっている？】

—私たちの家族のあり方—

家族といえども、各々は我執（がしゅう）を土台にした条件でつながっています。その条件とは、利害であり、損得であり、人間の愛憎であります。簡単に言うと、家族であっても、「あの人は私の敵か味方か」ということであります。その条件がそろっていれば味方であり、親子、兄妹、夫婦であっても、その条件がそろわなかったら、バラバラで、憎しみ争い合うことすらあるのです。

しかも、現代の経済至上主義の社会のあり方は、そんな家族のあり方に拍車をかけているのです。

今月の門徒さん

夫婦二人暮らしになって久しいのですが、お正月とお盆は、子どもたち3人も帰宅し、家族5人揃って迎えています。

我が家の元旦は、お正信偈のお勤めから始まります。娘と息子はお寺の土曜学校のおかげで、お勤めができるようになりました。

実家が浄土宗である義理の娘の美紀ちゃんのお正信偈の声はたどたどしいけど一生懸命。頑張れ！美紀ちゃん。



(第1組・西光寺)

【聞法始め】—家族とともに—

あるお寺の伝道掲示板に、「お念仏の教えを離れたらたとえ親子であっても夫婦であってもそれは他人と同じである」と書いてありました。それゆえに、年の始めにこそ、お念仏の教えを聞く大切な場としてのお内仏で、家族一緒にお勤めをしたいものです。

真宗大谷派 長崎教区教化委員会



りやくかたぎぬ

略肩衣を着用しましょう



お寺での法要、お通夜やお葬式、法事に婦人会など、お念珠を持つ際には一緒に略肩衣を着用するよう習慣づけましょう！



略肩衣(りやくかたぎぬ)は、真宗大谷派の門徒が、仏前における礼装として首から下げて着用する法具です。

かたぎぬ かみしも

肩衣は 袴 に由来するものです。

袴は、和服における正装の一種で、通常は肩衣と袴を共布で作り、小袖の上から着ます。江戸時代には無官の武士の最礼装とされ、その肩衣がさらに略されたものということで、「略肩衣」と言うのです。

つまり仏様にお参りをするに当たって、お念珠を持って略肩衣を着用することで、仏様を手づかみにせず礼を尽くす「最礼装」ということをあらわしているのです。



江戸時代の最礼装とされた袴は、上部の肩衣と下部の袴に分れています。さらにその肩衣が略されたものが、私たちが着用する「略肩衣」です。

略肩衣の着用を習慣づけるために、赤本・お念珠・略肩衣をいつも一緒に保管しておきましょう。

真宗大谷派 長崎教区教化委員会